

活動紹介

NPO 法人千葉県森林インストラクター会

講座名	緑を楽しむ講座 柏「生き物野宝庫大町自然公園の初夏」 ～学芸員が守る谷津の自然～		
開催日時	2023年5月20日(土) 10時～14時		
開催場所	市川市 大町自然公園	一般参加者	19名

活動概要

大町自然公園は北総台地の端にある谷津の自然を残した細長い公園です。市内のほとんどの谷津が宅地化した中で、この谷津を休耕田の時代に市が買い取り公園にしました。今も多様性に満ちた貴重な生き物の宝庫となっています。今回は谷津の地形と植物と動植物の関係をテーマにしました。

<今回の観察ポイント>

- ① 谷津の地形の特長・・・実際に台地から谷津へ下りって谷津を体感。斜面では13万年分の時が凝縮された地層を説明。冷たい湧水にも触れてもらいます。
- ② 植物と動植物の関係・・・今回は植物とチョウ(幼虫の食草)の関係を見てみましょう。
- ③ 多様な生き物が暮らす谷津の仕組み・・・狭い谷には林、草地、湿地、水辺など多様な環境があり、湧水が作る湿地は放っておくと流された土で陸化してしまいます。水田の頃はそれを農家が維持していたものを、今は併設する博物館の学芸員が維持しています。その工夫を紹介。
- ④ 鑑賞植物園・・・敷地内になぜか作られた鑑賞植物園(熱帯植物園)も手入れが行き届き、四季のある日本とは、全く違う環境に生きる植物の様子が見られます。

朝の内は小雨がぱらつき肌寒かった天気も回復し、チョウも舞い始めました。昼食は京成バラ園が管理するバラを鑑賞しながら取りました。

		
湧水の始まりはここから	森が作る湧水の仕組みも説明	初夏の谷津と整備された中央水路
		
小鳥の声を聞きながら	アカタテハの幼虫の食草カラムシ	バラ園から移動

ただ散策しても気持ちのよい大町自然公園ですが、少し視点を変えてみるともっと楽しめます。これからは湿地のハンノキの周りにミドリシジミチョウ、夏には蛍が舞います。これも湿地の維持があってこそを知っていただきました。

F I C チーフ講師：植村敦子、アシスタント講師 内藤公雄・田中靖